

平成 17 年（2005 年）—投稿論文—

原著論文

英文誌

- 1) H. Nagatsuka, K. Hibi, M. Gunduz, H. Tsujigiwa, R. Tamamura, T. Sugahara, A. Sasaki, N. Nagai: Various Immunostaining Patterns of CD31, CD34 and Endoglin and Their Relationship with Lymph Node Metastasis in Oral Squamous Cell Carcinomas. *Journal of Oral Pathology and Medicine* **34**: 70–76, 2005.
- 2) N. Mizukawa, S. Takagi, T. Yamaai, J. Fukunaga, T. Ueno, Y. Kaneda, T. Kagawa, T. Sugahara: Clinical effects of cevimeline hydrochloride for the treatment of dry mouth in 2 patients with Sjögren's syndrome. *Journal of Hard tissue biology* **14(2)**: 58–59, 2005.
- 3) S. Takagi, N. Mizukawa, J. Fukunaga, N. Ishida, T. Sugahara: Two cases of jaw reconstruction using vascularized fibular bone graft and implant. *Journal of Hard tissue biology* **14(2)**: 64, 2005.
- 4) T. Fujii, T. Ueno, T. Kagawa, M. Kanou, J. Fukunaga, T. Sugahara: Immunohistochemical analysis of Sox9 in the periosteum of tibia and calvaria after surgical release of perosteum. *Acta Histochemica* **106** : 427–437, 2005.
- 5) M. Kanou, T. Ueno, T. Kagawa, T. Fujii, Y. Sakata, N. Ishida, J. Fukunaga, T. Sugahara: Osteogenic Potential of Primed Periosteum Graft in the Rat Calvarial Model. *Annals of Plastic Surgery* **54 (1)**: 71–78, 2005.
- 6) T. Yamada, K. Fujiwara, K. Mishima, T. Sugahara: Effect of ENU (ethylnitrosourea) mutagenesis in cleft lip and/or palate pathogenesis in mice. *International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery* **34(1)**: 74–77, 2005.

突然変異誘発剤である ENU (ethylnitrosourea) を用いて AJ 系および ICR 雄マウスの精原細胞に点突然変異を誘発し、口唇口蓋裂の発現頻度と遺伝様式を検討した。その結果、点突然変異は口唇口蓋裂の原因になることが明らかとなり、口蓋裂は劣性遺伝形質とすることが示唆された。
- 7) T. Yamada, K. Fujiwara, K. Mishima, T. Sugahara: Maxillary growth after scar infliction in the naso-labial region. *Asian Journal of Oral and Maxillofacial*

Surgery 17(2): 75-80, 2005.

ICR マウス乳児の口唇手術に関連する癒痕形成が顎顔面発育におよぼす影響を分析した。その結果、口唇よりも鼻中隔および口腔前庭に対する手術侵襲が発育に大きく影響することが明らかとなった。

- 8) Seijas F. J. L., K. Mishima, T. Sugahara: Three-dimensional Analysis of Facial Soft Tissue Changes after Mandibular Retrusion Surgery. *Asian Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 17(5)*: 230-237, 2005.

非対称を伴わない下顎前突症に対し、下顎枝矢状分割術を施行した 6 人の患者に対し、術前術後にレーザースキャナーを用いて、顔面軟組織の形状変化を分析した。オトガイ部正中で最大の変化が観察され、外側に離れるにつれ、変化量が小さかった。

- 9) Gunduz. M, H. Nagatsuka, Demircan K, Gunduz E, Cengiz B, M. Ouchida, H. Tsujigiwa, E. Yamachika, K. Fukushima, Beder L, S. Hirohata, Y. Ninomiya, K. Nishizaki, K. Shimizu, N. Nagai: Frequent deletion and down-regulation of ING4, a candidate tumor suppressor gene at 12p13, in head and neck squamous cell carcinomas. *Gene 356*: 109-117, 2005.

- 10) M. Yoshiki, K. Satoshi, E. Takanori, K. Seiji, N. Kyoji, T. Masaharu: Regulation of chicken ccn2 gene by interaction between RNA cis-element and putative trans-factor during differentiation of chondrocytes. *Journal of Biological Chemistry 280*: 3166-3177, 2005.

- 11) H. Nagatsuka, P. P. Han, H. Tsujigiwa, C. H. Siar, M. Gunduz, S. Sugahara: A. Sasaki, M. Nakajima, Y. Naomoto, N. Nagai: Heparanase Gene and Protein Expression in Ameloblastoma: Possible Role in Local Invasion of Tumor Cells. *Oral Oncology 41*: 542-548, 2005.

- 12) T. Kawamoto, T. Sugahara: Examination of properties of bioabsorbable osteosynthetic material using finite element method. *Journal of Hard Tissue Biology. 14 (2)*: 65-66, 2005.

- 13) T. Yamada, K. Mishima, K. Fujiwara, T. Sugahara: Effect of ENU (ethylnitrosourea) mutagenesis in cleft lip and/or palate pathogenesis in mice. *International Journal of oral and maxillofacial surgery Jan 34(1)*: 74-77, 2005.

和文誌

- 1) 福永城司:骨粗鬆症に対するプロピオン酸菌発酵物 DHNA の骨代謝改善作用の基礎的検討. *糧食研究会雑誌*: 1-5, 2005.
- 2) 兵頭誠治、三島克章、吉本智人、菅原英次、菅原利夫: 地域高齢者における口腔保健状況と歯科治療の必要性に関する研究. *老年歯科医学会誌 20(1)*: 50-62, 2005.

岡山県高梁市に居住する要介護高齢者 32 名, 日常生活自立高齢者 211 名を対象に, 全身疾患・痴呆の有無, ADL, 口腔状態などを調査し群間比較した. 全身疾患は要介護群の全員, 自立群の約 6 割が有していた. 痴呆は要介護群の約 5 割に認め, 自立群にはほとんど認めなかった. ADL スコアは全ての項目で要介護群が有意に低く, 口腔衛生に直結すると思われる『手の挙上』などの動作も要介護群が有意に劣っていた. 口腔機能(言語, 咀嚼, 嚥下, 口腔乾燥)も全ての項目で有意差を認めた. 口腔衛生状態では清掃不良者を要介護群の 53%, 自立群の 20%に認めた. 何らかの歯科治療, 指導が必要と判断された者は要介護群で 88%, 自立群で 79%にのぼったが, 実際に治療を受けていたのはそれぞれ 34%, 11%と極めて少なかった.

症例報告

英文誌

- 1) S. Kuroda, Y. Araki, S. Oya, K. Mishima, T. Sugahara: Takano-Yamamoto T.: Maxillary distraction osteogenesis to treat maxillary hypoplasia: Comparison of an internal and an external system. *American Journal of Orthodontic Dentofacial Orthopedics 127(4)*: 493-498, 2005.

上顎劣成長の患者二人に対して、創外型と創内型の延長期を用いて、それぞれ上顎を前方移動し、移動様相を比較検討した。

和文誌

- 1) 植野高章, 本多浩三, 香川智正, 石田展久, 福永城司, 水川展吉, 沢木聖子, 白数信明, 菅原利夫: β -TCP を用いてインプラント周囲欠損骨の骨再生を行った 1 症例. *岡山歯学会雑誌 24*: 71-73, 2005.
- 2) 菅原利夫, 川本知明: 顎関節の応力解析で、人工顎関節の治療法が飛躍的に進化. *SolidWorks EXPRESS User's Case Study 02*: 6, 2005.

著書

菅原利夫: 画像の読影 (CT,MRI シンチグラフィーを含めて).*口腔外科 Year Book 一般臨床家、口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル '05*(共著) 84-90, 2005.

平成 17 年 (2005 年) 一学会発表一

国外

- 1) T Ueno, K Kagawa, T Fujii, N Mizukawa, T Sugahara: Evaluation of osteogenic potential using beta-tricalcium phosphate in combination with a periosteal cell graft. The 17th International Congress of Oral and Maxillofacial Surgery. (Viena, Oral Presentation)
- 2) T. Ueno, K. Kagawa, T. Fujii, N. Mizukawa, T. Sugahara: Evaluation of osteogenic potential of cultured periosteum-derived cells. European calcified tissue society and International bone and mineral society. (Geneva, June 28th 2005,P-327 Poster Session)

国内

- 1) 坂田吉郎, 植野高章, 香川智正, 白数信明, 沢木聖子, 菅原利夫: ラット頭蓋骨骨欠損部での β -TCP 骨膜複合移植の骨形成過程の組織学的研究. 第 23 回九州地区日本口腔インプラント学会(北九州, 2006 年 2 月 9 日, 口演)
- 2) 白数信明, 坂田吉郎, 植野高章, 香川智正, 菅原利夫: 培養骨膜細胞分化における SOX9 の発現. 第 7 回中国四国日本口腔インプラント学会(岡山, 2005 年 11 月 13 日, 示説)
- 3) 坂田吉郎, 植野高章, 香川智正, 菅原利夫: ラット頭蓋骨骨欠損部での β -TCP の骨形成への骨膜細胞の影響. 第 7 回中国四国日本口腔インプラント学会(岡山, 2005 年 11 月 13 日, 示説)
- 4) 脇本真理, 植野高章, 香川智正, 加納みわ, 石田展久, 本多浩三, 菅原利夫: 当科における萎縮顎骨へのインプラント前処置としての骨増量術の臨床検討. 第 50 回日本口腔外科学会総会 (大阪, 2005 年 10 月 23, 24, 25 日, 示説) 学会賞受賞

- 5) 坂田吉郎, 植野高章, 香川智正, 菅原利夫: 頭蓋骨骨欠損部での β -TCP の骨形成への骨膜細胞の影響についての実験的研究. 第 50 回日本口腔外科学会総会 (大阪, 2005 年 10 月 23, 24, 25 日, 示説)
- 6) 長谷田育子, 植野高章, 香川智正, 坂田吉郎, 菅原利夫: 顎炎発症後の顎骨への歯科インプラント治療臨床的検討. 第 50 回日本口腔外科学会総会 (大阪, 2005 年 10 月 23, 24, 25 日, 示説)
- 7) 佐藤晃子, 福永城司, 池上秀二, 坪井洋, 原田志保, 木村英恵, 木全正崇, 松原正和, 菅原利夫: ビフィズス菌増殖因子 (DHNA) の骨吸収抑制効果について. 第 50 回日本口腔外科学会総会 (大阪, 2005 年 10 月 23, 24, 25 日, P-1-238, 示説)
- 8) 木全正崇, 福永城司, 原田志保, 佐藤晃子, 植野高章, 香川智正, 松原正和, 菅原利夫: FK506 投与骨粗鬆症モデルマウスにおける骨吸収機構の解明. 第 50 回日本口腔外科学会総会 (大阪, 2005 年 10 月 23, 24, 25 日, P-1-237, 示説)
- 9) 金田祥弘, 水川展吉, マック・フレデリック・ケビン, 池田篤司, 香川智正, 山近英樹, 菅原利夫: シェーグレン症候群および口腔乾燥症患者の口唇腺組織における β デフェンシンの発現. 第 53 回日本口腔科学会中国・四国地方部会 (香川, 2005 年 11 月 5 日, 口演)
- 10) 守屋佳典, 高木 慎, 水川展吉, 福永城司, 岡本 信, 沖 和弘, 有馬太郎, 皆木省吾: 血管柄付腓骨皮弁移植とインプラントによる顎骨再建の一症例. 第 25 回中国四国インプラント学会 (岡山, 2005 年 11 月 11-13 日, 口演)
- 11) 大浦明日香, 三島克章, 山田朋弘, 香川智正, 井村英人, 菅原利夫: 抗凝固療法中の口蓋形成術の経験. 第 34 回日本口腔外科学会中・四国地方会 (米子, 2005 年 5 月 21, 22 日, 口演)
- 12) 森谷徳文, 三島克章, 山田朋弘, 菅原利夫: 上唇に発生した類表皮嚢胞の一例. 第 34 回日本口腔外科学会中・四国地方会 (米子, 2005 年 5 月 21, 22 日, 口演)
- 13) 井村英人, 山田朋弘, 三島克章, 藤原久美子, 大浦明日香, 菅原利夫: マウス胎仔由来培養間葉細胞における TCDD の口蓋裂関連遺伝子に対する影響. 第 29 回日本口蓋裂学会総会 (東京, 2005 年 5 月 25 日, B-1-29, 口演)

- 14) 米野潔, 花岡美幸, 三島克章, 菅原利夫, 田中栄二, 丹根一夫: 口蓋裂と斜顔裂を伴う反対咬合患者に対する長期矯正歯科治療例. 第29回日本口蓋裂学会総会 (東京, 2005年5月26日, P-2-14, 示説)
- 15) 白数信明, 植野高章, 香川智正, 坂田吉郎, 澤木聖子, 菅原利夫: 頭蓋骨骨欠損部での骨膜細胞による β -TCPの骨形成への影響. 第25回中国四国インプラント学会 (岡山, 2005年11月11-13日, 示説)

特別講演

- 1) 水川展吉: 国内外における口腔内及び顎顔面の欠損修復. 第1回顎顔面補綴研究会 (岡山, 2005年5月25日, 口演)
- 2) 水川展吉: インプラントを考える. 岡山大学歯学部同窓会岡山県支部講演会. (岡山, 2005年4月24日, 口演)
- 3) 水川展吉: 再建用プレートについて. 第2回ユニバーサルCMFパネルミーティング. (大阪, 2005年10月24日, 示説)

国内招待シンポジウム

- 1) 高木 慎, 水川展吉, 福永城司, 石田展久, 菅原利夫: 血管柄付腓骨皮弁とインプラントによる顎骨再建の2例. 国際顔面頭蓋国際シンポジウム (岡山, 2005年9月17-20日, 口演)

国際学会招待シンポジウム

- 1) N. Mizukawa, S. Takagi, T. Yamaai, J. Fukunaga, T. Ueno, Y. Kaneda, T. Kagawa, T. Sugahara: Case of Sjogren's syndrome at Department of Oral and Maxillofacial Reconstructive Surgery in Okayama University hospitals. International Symposium of Maxillofacial & Oral Regenerative Biology in OKAYAMA 2005. (OKAYAMA, September 17-20, 2005, Oral presentation)

平成17年(2005年) 一学位授与一

- 1) 桐野 志保 : Regulation of bone metabolism in immunosuppressant (FK506) - treated rats. (免疫抑制剤FK506投与骨粗鬆症ラットにおける骨動態の検討)
- 2) 藤井 崇史 : 頸骨および頭蓋骨における剥離骨膜からの新生骨形成過程の組織形態学的観察
- 3) 藤原久美子 : ダイオキシン誘発マウス口蓋裂の発症機序に関する研究
- 4) 吉本 智人 : Different Expression Patterns of beta-Defensins in Human Squamous Cell Carcinomas. (口腔扁平上皮癌におけるHBDの発現様式の検討)

平成 17 年 (2005 年)

—文部科学省科学研究費補助金—

- 1) 菅原 利夫, 福永 城司, 三島 克章, 水川 展吉, 植野 高章, 池上 秀二: 基盤研究 (B) “骨粗鬆症に対するプロピオン酸菌発酵物の分子遺伝子解析と骨代謝改善作用の検討” 課題番号 17390538
- 2) 菅原 利夫, 福永 城司, 山田 朋弘 : 萌芽研究 “歯の発生に係るミッドカイン (MK) の機能についての研究” 課題番号 17659634
- 3) 福永 城司, 山近 英樹, 辻極 秀次 : 基盤研究 (C) “免疫細胞が引き起こす骨吸収機構への分子遺伝的な解明” 課題番号 17592078
- 4) 植野 高章, 香川 智正 : 基盤研究 (C) “ヒト骨膜細胞複合移植を用いた骨再生医療の臨床応用化への研究” 課題番号 17592079